

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : エアコン洗浄プロ303中和剤

化学品の推奨用途 : アルカリ廃液用中和剤

整理番号 : SDS 74-53

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : コーイング株式会社

住所 : 名古屋市中川区伏屋1-807-1

電話番号 : 052-431-9070

FAX 番号 : 052-431-9071

作成年月日 : 2018年 5月17日

改訂年月日 : 2022年 5月 2日

2. 危険有害性の要約

<GHS 分類>

物理化学的危険性

全ての項目において「区分に該当しない」もしくは「分類できない」である。

健康に対する有害性

急性毒性（粉じん、ミスト） : 区分4
皮膚腐食性／刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 区分1（呼吸器）

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） : 区分3

（注）記載なきGHS分類区分：区分に該当しない／分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語：危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

吸入すると有害

呼吸器の障害

水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- 取扱い後は手や顔をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- 環境への放出を避けること。
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

- 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ばく露又はばく露の懸念が有る場合：医師に連絡すること。
- 直ちに医師に連絡すること。
- 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

- 施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び含有量

成分名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法 No.
りん酸	80-90	7664-38-2	(1)-422
添加物	非公開	非公開	非公開

4. 応急措置

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、安静にさせる。気分の悪い場合は速やかに医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
使ってはならない消火剤	:	情報なし
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器内に水を入れてはいけない。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 状況に応じた適切な呼吸用保護具を使用すること。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
環境に対する注意事項	:	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 環境中に放出してはならない。
封じ込め、浄化の方法及び機材	:	危険でなければ漏れを止める。 回収、中和：不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 二次災害の防止策：すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	・「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。 ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 ・環境への放出を避けること。 ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 ・取扱い後は手や顔をよく洗うこと。 ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	・換気の良い場所で保管すること。 ・容器を密閉しておくこと。 ・施錠して保管すること。
容器	・ポリエチレン製容器。 ・消防法、国連危険物輸送勧告で規定された容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	:	未設定
許容濃度	:	日本産衛学会（2014年度版） 1 mg/m ³ （りん酸） ACGIH（2014年版） TLV-TWA 1 mg/m ³ （りん酸） TLV-STEL 3 mg/m ³ （りん酸）
設備対策	:	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒューム、ミスト、ガスが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	:	呼吸用保護具（防じんマスク、簡易防じんマスク）。換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。保護手袋（ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。ネオプレンが推奨される）。飛沫を浴びる可能性のある時は、全身の化学用保護衣（耐酸スーツ等）を着用する。保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）。適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。しぶきの可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服（例えば、酸スーツ）及びブーツが必要である。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
色	:	無色透明
臭い	:	無臭
融点／凝固点	:	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	データなし
可燃性	:	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火点	:	データなし
分解温度	:	データなし
pH	:	1.0以下（強酸性）
動粘性率	:	データなし
溶解度	:	水に可溶。エタノールに可溶
n-オクタノール／水分配係数（log値）	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び／又は相対密度	:	1.66～1.76
相対ガス密度	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	「危険有害反応可能性」を参照。
化学的安定性	:	通常の手扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	:	中程度の酸性である。塩基と激しく反応する。
避けるべき条件	:	混触危険物質との接触。
混触危険物質	:	多くの金属を侵して引火性/爆発性気体（水素）を生じる。

アゾ化合物、エポキシド、アルコール、アルデヒド、シアン化物、ケトン、フェノール、エステル、硫化物、有機ハロゲン化物との接触に注意する。

危険有害な分解生成物 : 燃焼の際は、リン酸化物などが生成される。

1 1. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ATEmixの計算結果が2222mg/kgのため、区分5に該当。対象国危険有害性区分補正処理により区分5から区分に該当しないに変更。 経皮 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しないに該当。 吸入：気体 区分に該当しない（分類対象外）。 吸入：蒸気 データ不足のため分類できない。 吸入：粉じん、ミスト ATEmixの計算結果が1.07mg/lのため、区分4に該当。
皮膚腐食性／刺激性	: 区分1の成分合計が濃度限界(5%)以上のため、区分1に該当。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 眼区分1の成分合計が濃度限界(3%)以上のため、区分1に該当。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: リン酸が10%以上のため、区分1(呼吸器)に該当。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	: データ不足のため分類できない。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	: 加算法の結果より区分3に該当。
水生環境有害性 長期（慢性）	: データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	: データ不足のため分類できない。
生体蓄積性	: データ不足のため分類できない。
土壤中の移動性	: データ不足のため分類できない。
オゾン層への有害性	: データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

- ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

- ・容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	:	1805
品名	:	PHOSPHORIC ACID, SOLUTION
国連分類	:	8 (腐食性物質)
容器等級	:	III
海洋汚染物質	:	該当しない
MARPOL 73/78附属書II及びIBCコード によるばら積み輸送される液体物質	:	該当しない

国内規制

海上規制情報	:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	:	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	:	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全 対策	:	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。 他の危険物のそばに積載しない。
緊急時応急措置指針番号※	:	154

※ 北米緊急時応急措置指針に基づく。米国運輸省が中心となって発行した「2008 Emergency Response Guidebook (ERG 2008)」(一般社団法人日本化学工業協会によって和訳されている (発行元: 日本規格協会) に掲載されている。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	:	名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9) (りん酸) 名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表 第9) (りん酸) リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3) (りん酸)
化学物質排出把握管理促 進法 (P R T R 法)	:	非該当
毒物及び劇物取締法	:	非該当
消防法	:	非該当
航空法	:	腐食性物質
船舶安全法	:	腐食性物質
水質汚濁防止法	:	生活環境項目 「水素イオン濃度」「リンの含有量」

1 6. その他の情報

引用文献

- ・化学物質総合情報提供システム (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・原料のSDS
- ・JIS Z 7252 : 2019
- ・JIS Z 7253 : 2019
- ・化学品法令集 化学工業日報社

・11892化学商品”化学工業日報社（1992）

責任の限定

本記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用してください。ここに記載した GHS 分類区分の算出根拠は、現時点における日本公表データです。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。